

農水産物・食品の輸出総額が7千億円突破

2月2日、農水省は2015年の農水産物・食品の輸出総額が7452億円となったと発表した。安倍首相の政策課題とする平成32年度までに総額1兆円を目指すと言われていた目標値に1歩前進した結果となっている。輸出額が伸びた要因としては和食人気浸透してきたこと、福島県第2原子力発電所の事故による国内農産物輸入規制が緩和されてきたこと、円安に推移したこと、高品質な農産物が評価されているということだ。主な輸出先は香港・米国が1千億円を超える額となっており、次いで台湾・中国・韓国が500億円以上1千億円以下の輸入量がありこのトップ5で総額の約70%近い輸出額となっている。主な輸出品目を見ると海産物や鮮魚、嗜好品（たばこ）や飲料がほとんどだ。輸出戦略上の重要品目として挙げられている農産物はコメ・コメ加工品、青果物（リンゴ・ながいも）・花卉・緑茶があるが、花卉を除いては前年比約20%以上の伸び率となっている。日本酒についても酒造メーカー

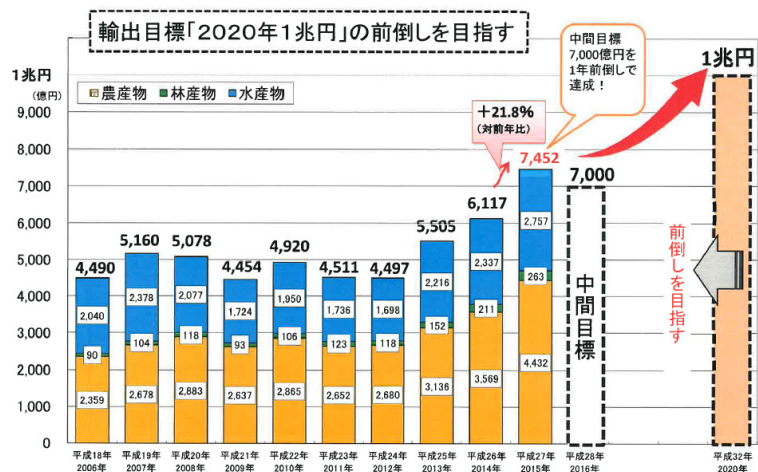
の努力により海外に展開する例が目立っており、金額ベースで140億円が日本酒の輸出額となっている。コメについてはまだ7,640t程度、金額にして22億円となっており金額で56.4%の高い伸びとなっているものの全国の生産量に対しての輸出量は0.1%程度でまだまだといて良いだろう。これからの更なる飛躍に期待したいところだが現在、輸出される農産物の価格は近隣諸外国において普段流通している農産物よりも明らかに高価なものばかりが現状だ。確かに日本の人口以上にアジアには富裕層人口はいるのだが、富裕層だけ狙った戦略では数に限りがあり一般層にも浸透させなければならないだろう。流通の面では那覇空港を中継地点として整備がなされている。鮮度保持については日進月歩で技術開発が進められているがやはり航空便では物流費がかかってしまい運べるものも品質が最上級で高価なものだけという現状がある。検疫の関係も相手の実情に合わせることも必要だ。農産物においては相手の嗜好も重要でニーズを捉えることが更なる農産物輸出増加のカギとなるのではないだろうか。

○主な輸出先国・地域別輸出額(平成27年)

順位	輸出先	輸出額(億円)	総額に占める割合	対前年増減率	主な輸出品目(億円)					
					1位	2位	3位			
1	香港	1,794	24.1%	33.5%	真珠	251	乾燥なまこ	100	たばこ	87
2	米国	1,071	14.4%	14.9%	ホタテ貝	127	ぶり	116	アルコール飲料(日本酒)	94
3	台湾	952	12.8%	13.8%	たばこ	130	りんご	99	さんご	73
4	中国	839	11.3%	35.0%	ホタテ貝	242	丸太	57	さけ・ます	43
5	韓国	501	6.7%	22.7%	アルコール飲料(ビール)	65	ホタテ貝	33	ソース混合調味料	27
6	タイ	358	4.8%	3.1%	かつお・まぐろ類(まぐろ)	74	さば	46	豚の皮(原皮)	43
7	ベトナム	345	4.6%	18.0%	ホタテ貝	61	粉乳	27	さば	21
8	シンガポール	223	3.0%	18.0%	アルコール飲料(ウイスキー)	20	小麦粉	12	ソース混合調味料	11
9	オーストラリア	121	1.6%	28.1%	清涼飲料水	15	ソース混合調味料	15	アルコール飲料(ビール)	14
10	オランダ	105	1.4%	41.7%	アルコール飲料(ウイスキー)	17	ホタテ貝	16	播種用の種等	7

()内は内数

農林水産物・食品の輸出額の推移





暦の上では立春を過ぎ春の始まりとなりましたが、まだまだ寒さ厳しい北海道から、市民のソウルフードならぬソウルフェスティバル「さっぽろ雪まつり」をご紹介します。

その歴史は、1950年に地元の中・高生が6つの雪像を大通公園に作ったことが始まりとされています。1953年には「さっぽろ雪まつり」の代名詞とも言える高さ15メートルの大雪像が、初めて作られました。1955年には自衛隊が参加するようになり、大規模な雪像作りが行われ始めました。第10回開催の1959年には2500人が雪像制作に動員され、テレビ・新聞で紹介されたこともあり、翌年からは本州からの観光客が増え、大盛況な雪まつりに発展していきました。1972年には札幌オリンピックが開催され「ようこそ札幌へ」のテーマで雪まつりの知名度は世界中に広まりました。

1974年以降、瀋陽・アルバータ州・ミュンヘン・シドニー・ポートランド等、札幌とつながりの深い海外の雪像が制作され、国際色豊かな雪まつりとして成長を続けています。そして2016年「第67回さっぽろ雪まつり」は2月5日～11日まで、大通会場をメイン会場とし、第二会場のつどーむ会場、第三会場のすすきの会場の3つの会場で開催されます。大通会場は1～12丁目までの約1.5kmに、大雪像5基・大氷像2基・中雪像8基に市民雪像を加えた計126基が並んでいます。巨大且つ精巧な大雪像は迫力満点です。日没後は雪氷像のライトアップもあり、大雪像に映像を映し出すプロジェクションマッピングが人気となっています。つどーむ会場は親子で満喫できる雪あそびが盛り沢山の他、北海道ならではのグルメイベントも相次いで企画されています。すすきの会場は北海道最大の繁華街の真ん中で、「水を楽しむ」をテーマに氷像60基が並びます。カニや魚が閉じ込められたユニークな氷像もありますが、ライトアップとネオンの光に照らされ、幻想的な雰囲気を醸し出します。

昨年の来場者は235万人で、今回もそれ以上の来場者を見込んでいます。中でも外国人観光客の増加には目を見張るものがあります。雪まつりに限らず北海道を訪れた外国人観光客の増加は著しく、観光庁によると2014年の外国人宿泊者数は延べ403万人で、国内旅行者を含めた全宿泊者数の12.4%を占め、道人口の7割を超えています。このような外国人旅行者の日本におけるインバウンド消費は2兆円を突破し、日本経済を下支えするまでになっています。この流れを契機に、外国人旅行者に北海道の農産物や特産品そしてその「味」を覚えてもらい、政府目標でもある将来の輸出増に結び付けることが、これからの農業界の腕のみせどころではないでしょうか。雪まつり終了翌日の早朝には、雪像達は解体され雪の山になっていきます。この解体作業見学をもう一つの楽しみにしている方々も、年々増えているそうです。



●クリオネ通信● —北海道遺産(次の世代へ繋げる宝物)を巡る—

「流氷とガリンコ号」(紋別市等): 最も緯度の低い流氷の海がオホーツク海です。遠くシベリアより栄養分を運び豊かな海を育む流氷は大切な宝物です。今がシーズンの流氷を見に来ませんか。もしかしたらクリオネも見られるかもしれません。

先日の節分の日、帰宅した後の夜に豆まきをしました。豆まきはいつやるのが正しいのだろう?と思って調べてみたところ、鬼は鬼門=丑寅の方角(北東)から夜やってくると言われているので、時間帯も本当は丑寅=夜中2時~明け方4時頃が正しいそうです。

編集事務局: 南部、助川

電話: 03-5275-5511/E-mail: macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>